



Good News for Japan

とぎのこえ

4月20日は
イースターです

この方のほかには (イエス・キリスト) 救いはない



大将 アンドレ・コックス

このイースターの時、わたしたちは、救い主、イエス・キリストの死と復活を覚え、教会暦にとつて最も大切な行事をお祝いします。この出来事が意義深いのは、イエス様が墓の中にとどまらず、死から復活なさったという事実だけでなく、わたしたちもまた、

いつの日か永遠の命によみがえることができる、という約束を指し示しているからです。わたしたちは、この地上では、肉体の形をもって生きていますが、永遠に生きることができ、永続的な存在でもあるのです。このことを知っていることは大切なことです。

最近、世界的な設計事務所NBBJ社のチーフ・マーケティング・オフィサー、ティム・レーベレヒト氏の言葉に目が留まりました。「わたしたちは今、不確実の時代に生きています。経済危機機のもたらす希望のない状態、マスマーケットの崩壊、デジタルライフスタイルの蔓延、伝統的社会的構造の崩壊は、わたしたちのうちに心配を引き起こすだけでなく、単純さと経済的価値によらない価値観を求め、消費中心の豊かさや地位を求め、より多くのものを得ることよりも、何か意味のあるもののために貢献したい、経験したいという強い願望に取って代わられつつあります。」

地上のたくさんの方所で、物質中心の考え方がはびこり、人間が本当に永続する満足を得るために必要な、他の大切な要素が排除されています。物質中心主義は、わたしたちの心の深いところの願いについての答を与えてはくれません。この世の至る所に見られる表面的な豊かさは、本当の喜びと自由とを与えてはくれません。命は、たくさん持ち物を持つこと以上のものです。今日、多くのものを持ちながら、満足を感じていない人がたくさんいるのです。

聖書は、言うまでもなく、人間の最も基本的なニーズや問いについて語ります。わたしたちの生きる目的について語っています。わたしたちの運命について、永遠の将来の安心について語っています。わたしたちが聖書を注意深く読み、熱心に学び、祈り深く瞑想する時、そして、その上で人生の本当の充足感を求めるならば、その充足感を感じ始めることができるでしょう。

ある人たちは、熱心に人生の目的を探求し、死んだ後にも「何か」があるという確証を得たいと望んでいます。ところが、人々は、それらを間違ったところに探しているのです。見えない今を見ようとして、時には恐ろしく見える未来に何か安心を得たいと思ったりして、結局は実りのない星占いなどに頼る人が、

「今日わたしたちが取り調べを受けているのは、病人に對する善い行いと、その人が何によつていやされたかということについてであるならば、あなたがたもイスラエルの民全体も知つていただきたい。この人が良くなつて、皆さんの前に立つてゐるのは、あなたがたが十字架につけて殺し、神が死者の中から復活させられたあのナザレの人、イエス・キリストの名によるものです。この方こそ、『あなたがた家を建てた者に捨てられたが、隅の親石となつた石』です。ほかのだれによつても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」(万国総督)

新約聖書の使徒言行録には、使徒ペトロとヨハネが、



「わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです」という真理を発見すること以上に大切なことは、この地上にはありません。キリスト教のメッセージは、実際に

「今日わたしたちが取り調べを受けているのは、病人に對する善い行いと、その人が何によつていやされたかということについてであるならば、あなたがたもイスラエルの民全体も知つていただきたい。この人が良くなつて、皆さんの前に立つてゐるのは、あなたがたが十字架につけて殺し、神が死者の中から復活させられたあのナザレの人、イエス・キリストの名によるものです。この方こそ、『あなたがた家を建てた者に捨てられたが、隅の親石となつた石』です。ほかのだれによつても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」(万国総督)

「わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです」という真理を発見すること以上に大切なことは、この地上にはありません。キリスト教のメッセージは、実際に

「今日わたしたちが取り調べを受けているのは、病人に對する善い行いと、その人が何によつていやされたかということについてであるならば、あなたがたもイスラエルの民全体も知つていただきたい。この人が良くなつて、皆さんの前に立つてゐるのは、あなたがたが十字架につけて殺し、神が死者の中から復活させられたあのナザレの人、イエス・キリストの名によるものです。この方こそ、『あなたがた家を建てた者に捨てられたが、隅の親石となつた石』です。ほかのだれによつても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」(万国総督)

「今日わたしたちが取り調べを受けているのは、病人に對する善い行いと、その人が何によつていやされたかということについてであるならば、あなたがたもイスラエルの民全体も知つていただきたい。この人が良くなつて、皆さんの前に立つてゐるのは、あなたがたが十字架につけて殺し、神が死者の中から復活させられたあのナザレの人、イエス・キリストの名によるものです。この方こそ、『あなたがた家を建てた者に捨てられたが、隅の親石となつた石』です。ほかのだれによつても、救いは得られません。わたしたちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」(万国総督)



謹んで震災のお見舞いを申し上げます。一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

《信仰の体験談》

最愛の夫を 天に送って



一色義子

昨年6月に天に召された夫と最後のツーショット

永遠の命

イースターは、神の御子イエス・キリストが人々を愛し、その愛を貫かれて十字架の上に死なれ、三日目に復活なさった喜びの日です。そして、主イエスを信じる者が、イエス・キリストと共に永遠の命に復活するのだく発端となった、祝いの日です。

私はこれまで自分の命のことを思い巡らすばかりで、永遠の命ということがはつきりとは、わかりませんでした。ところが、最愛の夫尚次が主イエス・キリストを信じ、信仰をもって天に召された今、彼が永遠の命を与えられていることを確信し、この一事こそ、真実で、何にも増して深い喜び、感謝となりました。

二〇一二年、尚次が召される前年の九十歳の誕生日には、ケーキの上に本当に九十本のロウソクを点して皆で「ハッピーバースデー」を歌い、彼は一吹きに消えうとしたりして、楽しい時間を過ごしました。二〇一三年が明け、尚次は、手帳の第一頁に、「がんばれ！九十一歳！」と目標を記して、元氣でした。

いつも楽しい研究マン

飛行機大好きな少年だった尚次は、戦時中に航空機エンジンの東大工学部航空原動機学科に入学し、「B29より高く飛べ」と、日本の飛行機のエンジン向上に励みました。

終戦後、その航空原動機学科が中止になると、船のエンジンの研究に転換。アメリカのマサチューセッツ工科大学大学院に留学し、原子力工学の授業も最優秀で修めました。更に、国立船舶技術研究所時代には、世界の学者が招聘された米国の原子力船サバンナ号建造見学者の一人に選ばれて視察しました。

しかし、その後、原子力の安全性への疑問から、研究を転向。更に一九八〇年代の大気汚染公害問題を憂慮苦慮するようになり、四人の子らが遊ぶ中で、尚次は、工学の大学教授を辞めて、医学部を受験し学士入学して、無医村の医者になる、と決意を表明したのです。私は、ここぞ妻たる者、夫に代わり家計のために働く！と決意しました。しかしその数日後、尚次は大声で

「あ、いいことを思いついた！」と。公害のない「濃度差エ

ンジン」の発明のヒントを与えられたのです。

「これは、神様から与えられた地の塩のエネルギーだ！」

それからは、自然の中にエネルギーがあり、人間生活に必要な平和利用ならそれで十分だ、と、太陽熱や地熱や海流や風力や……無公害の新しい夢の実現に向かって研究を進めました。

四六時中、安全無公害の工学的動力化や省エネルギーに前向きに楽しく取り組み、イスラエル政府から招待され、死海の塩を何とかならないかと、ヘリコプターで聖地視察もしました。やがて、排気ガスやCO₂を出さないスターリング・エンジン開発に努め、最長老ながら、ヨーロッパの学者たちからも「NAO(ナオ)」と愛称で親しまれました。六十歳の時に全国から選ばれて、第六十代機械学会長も務めました。

教会中心の生活

尚次はエンジンア頭脳で、私が話を始めると「まず、結論は？」と冒頭に聞くのが常でした。その忘れられない決定的・結論的一言は、私と出会った見合いの冒頭、挨拶なしの開口一番、

「あなたはキリスト教で



4人の子らと一緒に

すね。私もキリスト教を勉強します」

だったのです。そして、尚次は、結婚後、最初のイースターに洗礼を受けました。以来、私たちは、外国でも日本でも、常に教会中心の生活を楽しんできました。やがて、所属する教会で、年配の方が多い長老会(役員会にあたる)に尚次が、若手として選ばれると、会堂建築などで大活躍し、高齢者や病後の方を自分の車で進んで送迎し、率先して奉仕しました。

また尚次は、ダイヤモンド婚を祝おうとするこの年まで、一度も私に怒ったことがありませんでした。ちよつと不都合なことがあっても、ゆるして、気にせず、彼といると、明るく楽しい



1985年、学会で講演した時の尚次

毎日でした。高齢になって退職後は、日曜日の礼拝を、最前列で私と並んで守りました。水曜日の祈禱会にも常連で、九十七歳まで車を運転して、教会の種々の集会に出席していました。

最後の日々

そして、昨年の六月、その日は「子供の日礼拝」で、尚次は定席で子らの合唱を喜んで聞いていました。夕刻には友人を散歩がてら送って、いつものように早く床に就いたのです。しかし、翌未明、「寒い」と訴え、三十八度を越える熱を出しました。夜が明けるのを待って、背広姿で救急車で病院へ。誤嚥性肺炎との診断で、万全を期して入院しました。

ところが、なかなか回復しません。私は聖書の、主イエスが病気を癒された個所にある「信じなさい」の言葉から、必死に祈りまし

た。一週間経っても、一向に状態は好転しません。

聖書には「神は愛なり」とあります。神様は尚次を、そして私をも愛してください。半信半疑のような頼りない声で、

「神様は愛よね」

「神は愛だ！ あたりまえではないか!!」

「ああそうだった！病人のはずの尚次に、これまでそうだったように、また今も、不信を吹き飛ばされました。

別れ

それから数日後、尚次は一人部屋に移りました。私は、久しぶりで家に帰らなくてよい、と仮眠を取りました。しばらくして気づくと、夜半十二時を過ぎてても尚次が目覚めています。傍らに寄って見ると、エンジンニア魂で、ベッド横の三台のモニターの動きを興味深げに、目で追っています。あまり疲れても良くありません。「もう休んだほうが、明日

に疲れが出ないでしょ。」

私はいつものように、明るく、でも小声で、病気を癒される願いと今日の感謝を短く祈り、

「主イエス・キリストの御名によってこのお祈りを献げます。アーメン」と結びました。すると、尚次が大きな、明るい、力強い声で、

「アーメン！」と唱和したのでした。

これが、尚次のこの世での最後の言葉、最後の声となりました。安らかに眠って、翌朝七時頃、息子たちも集まったところで、診察した医師から、召されたことを告げられました。

葬送の諸儀が、経堂緑岡教会でおこなわれました。前夜式は、松本敏之牧師による熱い想い一杯の説教、また、葬儀では、教え子ともいえる、東工大出身の安田治夫牧師から説教を賜り、敬愛し尊敬する諸氏の心熱い弔辞、数多の電報と多くのご参列、皆様の溢れる愛と友情に守られて、地上での別れの時をもちました。

尚次、亡き今

今、私は一人で朝食のテーブルにつきまます。長い年月、「お早う」の明るい声と共に尚次が向

き合って座り、まず尚次が日々の聖書の言葉を読み、共に祈りを献げ——ここ数年、尚次は英語で祈っていました。その声なしの朝食とは！ 改めて涙が湧きますが、あ、彼は神様のみもとで永遠の命を与えられて生きている」と、気づき嬉しくなります。

また、私が、もつと細心の注意をしていたなら尚次が肺炎にかかるのを防げたかもしれないか？と、後悔の念に苛まれることもあります。しかし、尚次の何事も怒らず寛大なゆるしを思い出すと同時に、たとえ愛があっても人間の限界の至らなさ、不束な者にこそ、イエス・キリストによる神の赦しがあることを気づかされ、感謝の思いに満たされるのです。このキリスト教の神の赦しの一事こそ、人の知恵を超える神の恵みです。

一人で生きる

今、一人で生きるのだと姿勢を起こしながらも、「二人ぼつちっ？」と口にした途端、一人ではない、神様が共におられる！更に、教会の、温かな、素晴らしい信仰による兄弟姉妹たちに囲まれていることこそ楽園と、心から



(15年ほど前)教え子の仲人をした時

の感謝に満たされるのです。そして、一人で生きるルールは？——主イエスが「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である」(ヨハネによる福音書15章12節)と言われ、キリストの愛をいただいている私には、人を愛する使命と、時が与えられている、と気づかされました。力と体力は不足でも、安否を問う短い電話をかけること、人々のために祈ること……まだまだたくさんできることがあります。

物事の可否を決断する時に、決断の速い尚次に意見を聞くいつもの習慣ができなくなり、(困ったな)と思

った途端、聖書の言葉——

- 私の近くの救世軍を紹介してください。
□キリスト教についてもっと知りたいです。
□「ときのことえ」の購読を申し込みます。

「……愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜び、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。愛は決して滅びない。……」(コリントの信徒への手紙一 13章 4〜8節)

これこそ、日常の生き方の万能の鍵——「マスター・キー」です。この鍵を持たされた以上、主イエス・キリストの小さな弟子の一人として、残る生涯を、この地球の人類が互いに愛し合う平和の世界を実現するために、平和の扉を開けて励みたい、と祈り、前向きに生かされる毎日となりました。復活の信仰こそ希望です。

一人でする上での日常の判断と決断の鍵が、具体的にちゃんと書いてあります。

「……愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜び、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。愛は決して滅びない。……」(コリントの信徒への手紙一 13章 4〜8節)

この部分を封書か葉書に貼り、裏、面下の救世軍にお送りください。

創立者 ウィリアム・ブリス 大将 アンンドレ・コックス (万国本営 英国 ロンドン) 日本司令官 勝地 次郎 (救世軍本営 東京都千代田区) http://www.salvationarmy.or.jp

アルコール飲料の害は計り知れません!

飲酒運転、健康被害、またアルコール依存症などの、社会的、健康的、精神的な害を私たちに及ぼします。特にアルコール依存症は、飲酒が自分の人生に害を及ぼすことがわかっていますが、止めることができない病気です。しかし、専門的な治療と適切な支援を受け、断酒することで回復可能です。救世軍では、現在、下記の施設でアルコール依存症者の回復支援の働きをおこなっています。この問題でお悩みの方は、ぜひ下記の支援施設かお近くの救世軍にお問い合わせください。



アルコール依存症者支援施設

- **自省館 (救護施設)** TEL 042-493-5374
生活の場を提供し、回復のために、個別支援計画に基づく生活及び自立支援をおこなっています。
- **男子社会奉仕センター** TEL 03-5860-2992
バザー場での作業を通して、身体的・精神的回復を図り、社会復帰できるよう訓練しています。

救世軍バザー場

新中古衣料、雑貨、家電製品、書籍、家具など品数豊富
東京都目黒区和田 2-21-2 TEL 03-5860-2992
交通: 東京メトロ丸の内線 中野富士見町下車徒歩 10 分
オープン 毎週土曜日 9 時~14 時

救世軍バザー場 江東出張所

新中古衣料、雑貨など掘り出し物多数
東京都墨田区太平 4-11-3 TEL 03-3626-0738
交通: JR、東京メトロ半蔵門線 錦糸町下車徒歩 10 分
オープン 毎週土曜日 10 時~15 時

◆寄贈品受付のお問合せは TEL: 03-5860-2992 まで



今年 4 月 6~12 日 酒害強調週間です

世界百二十六の国と地域で活動するプロテスタントのキリスト教会です。一八六五年、イギリスで始められ、家のない人々、貧しい人々、仕事につけない人々、アルコールに溺れる人々、搾取される女性たち、顧みられない子どもたち、災害に遭った人々……などに助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。日本での働きは、一八九五年に始まりました。伝道の拠点である小隊教会にあたるを開設し、廃娼運動を積極的におこない、失業者対策、児童養護や女性保護、結核療養所の設立、アルコール依存症者回復支援など、時代にさきがけて人々の必要に応える様々な社会福祉、医療の働

救世軍とは

The Salvation Army

きを興してきました。また、災害被災者支援もおこなってきました。これらの働きの中でも、アルコール依存症者の回復支援は、救世軍がその草創期から取り組んできたものです。自分の人生ばかりか家族の生活をも狂わせてしまう、この病気からの脱出の道を提供する団体として、信徒たちも率先してアルコール抜きのライフスタイルをとっています。日本では、『ときこのえ』や『禁酒のすすめ』(山室軍平著)、講演会などで酒の害を説いてきました。現在も、アルコール依存症者回復支援施設で、断酒と個別支援計画に基づく自立支援の働きをおこなっています。また、毎年、酒害強調週間に設けて、啓発に努めています。



日用品配布ボランティア募集

4 月から 11 月まで毎月 1 回、月曜日、東京・大手町の常盤橋公園でおこないます。詳しくは、救世軍本営 社会福祉部 TEL 03-3237-0865 までお問い合わせください。



救世軍佐野保育園、新園舎竣工・開設 50 周年記念集会



新園舎竣工式に大勢の人々が集いました

オープンのテープカットの様子→

開設 50 周年にあたり、老朽化した園舎を全面改築し、2014 年 3 月 8 日、新園舎竣工式及び 50 周年記念集会をおこないました。良い天候の下、明るい新園舎の中で、保育園、設計・建設に携わった会社、救世軍の関係者が集い、新しい出発を感謝し、お祝いの時をもちました。続いて、新園舎の内覧がおこなわれ、これには、近所の方や保護者、卒園生なども次々に来園し、見学しました。

のように人生が変えられたかを話し合ったり、他のクリスチャンのグループと一緒に賛美歌を歌ったり、クリスチャンの詩を朗読したりして、どんな人も神の前にかけがえのない大切な存在であることを伝えました。



世界をみつめて

〈ロシア〉

2 月 6 日~23 日におこなわれたソチオリンピックの会期中、救世軍伝道チームは人身売買に反対する啓蒙活動をおこないました。

大きなスポーツイベントがおこなわれると世界中から人々が集まりますが、そこでは、しばしば性的被害に遭う人々が出、また人身売買がおこなわれています。

伝道チームは、ソチの繁華街で A21 (世界 6 カ国で進められている 21 世紀の人身売買撤廃を推進する働き) が作ったパンフレットを配りましたが、そこには、30 秒に一人が人身売買の犠牲になり、その平均年齢は 12 歳である、と書かれていました。チームのメンバーは、このパンフレットにより、一人でも多くの人が人身売買の被害に遭わないことを願いつつ、この働きに従事しました。

また、救世軍伝道チームは、バスや電車で移動する時、メンバー同士が他の乗客に聞こえるように、イエス・キリストを信じてど



発行所 救世軍本営 印刷所 救世軍本営 印刷所 救世軍本営

電話 東京 (03) 3337-0881

〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町二丁目十七番

編集人 齋藤 恵子

印刷兼 代表者 勝地 次郎

発行日 毎月一日・十五日

▼定価 一日号 一部五〇円 (〒六〇円) 十五日号 一部六〇円 (〒六〇円) クリスマス特集号 十二月一日号 一部一〇〇円 (〒七〇円) 一年分 二七〇円 (送料七二八円) 振替 〇〇一八〇五四四〇〇

(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

(この欄に通信文を書くとは第三種扱いになりません)